

Ⅱ 調査結果の要約

Ⅱ 調査結果の要約

1. 区民の定住性

(1) 居住年数

「5年未満」(29.8%)が3割弱で最も高く、これに「5年以上10年未満」(19.4%)を合わせた『短期居住者』(49.2%)は5割弱となっている。また、「30年以上」(14.1%)と「生まれてからずっと」(9.5%)を合わせた『長期居住者』(23.6%)は2割台半ば近くとなっている。

(2) 定住意向

「当分はここに住むつもり」(52.4%)が5割強で最も高く、これに「永住するつもり」(32.0%)を合わせた『定住意向』(84.4%)は8割台半ば近くとなっている。一方、「近いうちに区外に転出するつもり」(4.3%)と「1年以内に区外に転出するつもり」(1.8%)を合わせた『転出意向』(6.1%)は1割未満となっている。

(2-1) 定住意向の理由

「交通網が充実していて便利だから」(86.1%)が8割台半ばを超え最も高く、次いで「勤務先に近いから」(42.4%)、「千代田区が好きだから」(42.2%)、「医療や福祉などの質が高いから」(39.7%)、「教育や学習の機会や場が充実しているから」(29.4%)と続いている。

(2-2) 転出意向の理由

「転勤などの仕事の都合」(48.1%)が5割近くで最も高く、次いで「もっと広い住宅に住みたい」(29.6%)、「もっと家賃や物価の安いところに住みたい」(27.8%)、「もっと居住環境の良いところに住みたい」(22.2%)、「もっと日常生活の便利なところに住みたい」・「もっと子どもの教育にふさわしいところに住みたい」(11.1%)、と続いている。

2. 居住環境評価

(1) 周辺的生活環境評価

周辺的生活環境の評価として、「良い」が最も高い項目は“交通の便”(92.0%)で9割強と高くなっている。「悪い」が最も高い項目は“騒音・振動”(36.0%)で3割半ばを超えている。

(2) 周辺の居住環境の満足度

周辺の居住環境の満足度を聞いたところ、「満足している」(52.8%)が5割強と最も高く、これに「大変満足している」(22.0%)を合わせた『満足』(74.8%)は7割台半ば近くとなっている。一方、「不満である」(4.4%)と「大変不満である」(1.3%)を合わせた『不満』(5.7%)は1割未満となっている。

3. 区の施設・施策への要望

(1) 力を入れてほしい施策

「防災対策」(40.1%)が約4割と最も高く、次いで「環境対策」(36.6%)、「高齢者施策」(34.5%)、「まちづくりの推進」(26.8%)と続いている。

4. 施策の満足度・重要度

(1) 施策の満足度・重要度

「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は“保健・衛生対策”(54.3%)が5割台半ば近くと最も高くなっている。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は“住宅対策”(33.8%)が3割半ば近くと高くなっている。

「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』は“防災対策”(89.7%)が9割弱と最も高くなっている。一方、「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた『重要でない』は“商工・観光・消費生活”(17.0%)、“男女平等、人権尊重の確立”(16.8%)、“生涯学習、文化・スポーツの振興”(16.6%)が1割台半ばを超えて高くなっている。

(2) 整備・充実すべき施設

整備・充実すべき施設を第1位から第3位までの順位づけで聞いた。

第1位から第3位までの積み上げでみると、「スポーツ施設」(34.4%)が最も高く、次いで、「高齢者福祉施設」(33.1%)、「公園・児童遊園・広場」(32.1%)、「児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設」(24.1%)の順となっている。

5. 広報活動

(1) 区政情報の取得媒体

「新聞折り込みによる『広報千代田』」(33.0%)が3割台半ば近くと最も高く、次いで「区のホームページ」(26.4%)、「区の施設等で入手した『広報千代田』」(18.7%)、「新聞折り込みによる『区議会だより』」、「区が発行するパンフレットやチラシ、ポスターなど」(ともに17.9%)と続いている。

(2) 広報千代田の閲読の有無

「読んでいる」(57.1%)が5割台半ばを超えている。一方、「読んでいない」(41.1%)は4割強となっている。

(2-1) 広報千代田の閲読状況

「必要・関心のあるところだけ読む」(53.9%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで「すべてのページに目を通す」(33.7%)、「写真や見出しを見る程度」(12.2%)と続いている。

(2-2) 広報千代田を読まない理由

「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」(39.6%)が4割弱で最も高く、次いで「入手しにくいから」(36.0%)、「掲載記事に興味のあるものが少ないから」(16.1%)、「区政に興味がないから」(8.3%)と続いている。

(3) 自宅での新聞購読の有無

「自宅で新聞を購読していない」(57.9%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「自宅で新聞を購読している」(36.4%)、「自宅で新聞を購読しているが、自分は読んでいない」(4.3%)と続いている。

6. 町会・ボランティア

(1) 町会や地域の活動、ボランティア活動への参加状況

「参加したことは無いが、関心はある」(38.5%)が4割近くで最も高く、これに「参加したことが無く、あまり関心も無い」(31.3%)を合わせた『参加したことは無い』(69.8%)は7割弱となっている。一方、「よく参加している」(10.1%)と「何回か参加したことがある」(16.1%)

を合わせた『参加したことがある』(26.2%)は2割台半ばを超えている。

(2) 町会・ボランティア活動で力を入れてほしい分野

「地域コミュニティの形成」(41.1%)が4割強で最も高く、次いで、「地域住民と町会との交流促進」(30.6%)、「区内大学、専修学校・各種学校との連携の促進」(26.2%)、「NPO・ボランティア等との連携・協働の促進」(22.8%)と続いている。

7. 高齢者総合サポートセンター

(1) 高齢者総合サポートセンターの認知度

「知らない」(48.7%)が5割近くで最も高く、次いで、「知っているが利用したことはない」(37.1%)、「知っていて、利用したことがある」(12.4%)と続いている。

(2) 高齢者総合サポートセンターの窓口の認知度

「知らない」(80.6%)が約8割で最も高く、次いで、「知っているが利用したことはない」(15.3%)、「知っていて、利用したことがある」(2.5%)と続いている。

8. かかりつけ医

(1) かかりつけ医の有無

「はい」(いる)(53.5%)が5割台半ば近く、一方「いいえ」(いない)(44.3%)は4割台半ば近くとなっている。

(1-1) かかりつけ医の医療機関

「診療所」(68.5%)が7割近く、「病院」(29.6%)が3割弱となっている。

(2) かかりつけ歯科医の有無

「はい」(いる)(68.6%)が7割近く、一方「いいえ」(いない)(29.8%)は3割弱となっている。

9. 自殺対策

(1) 悩みを相談できる人の有無

「いる」(85.1%)が8割台半ば、「いない」(13.0%)は1割台半ば近くとなっている。

(1-1) 悩みを相談する相手

「家族や親族」(85.7%)が8割台半ばで最も高く、次いで、「友人や同僚」(67.7%)が6割台半ばを超えて続いている。

(2) 悩みを相談する手段

「対面相談」(72.8%)が7割強で最も高く、次いで、「電話相談」(61.3%)が6割強と続いている。

10. 地域コミュニティ

(1) 現在関わっている地域でのつながり

「友人」(36.4%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「同じマンション内のつながり」(23.2%)、「近隣の住人とのつながり」(22.1%)と続いている。

(2) 地域でのつながりで充実させたいもの

「近隣の住人とのつながり」(26.9%)が2割台半ばを超えて最も高く、次いで「友人」(24.5%)、

「町会のつながり」(23.2%)、「同じマンション内のつながり」(22.7%)と続いている。

(3) 地域でのつながりで窓口となる人の有無

「はい」(いる)(31.9%)が3割強、「いいえ」(いない)(64.9%)が6割台半ば近くとなっている。

(3-1) 地域でのつながりで窓口となる人について

「町会関係者」(55.4%)が5割台半ばで最も高く、次いで「マンション関係者」(40.4%)が約4割で続いている。

11. ちよだ生涯学習カレッジ

(1) ちよだ生涯学習カレッジの認知度

「知らない」(72.0%)が7割強と最も高く、次いで「名称は聞いたことがある」(21.4%)、「名称も内容も知っている」(5.2%)と続いている。

(1-1) ちよだ生涯学習カレッジのコースの認知度

「どちらも知らない」(76.5%)が7割台半ばを超えて最も高く、「どちらも知っている」(13.7%)は1割台半ば近くとなっている。

(1-2) ちよだ生涯学習カレッジのコースを何で知ったか

「広報千代田」(52.1%)が5割強と最も高く、次いで「チラシやポスター」(16.7%)が1割台半ばを超えている。

(2) ちよだ生涯学習カレッジへの興味の有無

「興味はあるが、入学は考えていない」(46.0%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで「興味はない」(37.9%)、「興味があり、入学してみたい」(14.6%)と続いている。

(2-1) ちよだ生涯学習カレッジに入学したい理由

「大人の『学び』をしたい」(80.5%)が約8割と最も高く、次いで「地域コミュニティに興味がある」(35.9%)、「社会貢献(ボランティア・プロボノ)に興味がある」、「地域で活動する力を身につけたい」(ともに32.0%)と続いている。

(2-2) ちよだ生涯学習カレッジに入学しない理由

「時間がない」(56.2%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「『学ぶ』ことを考えていない」(14.1%)、「魅力的なコースがない」(11.9%)、「2年制は長いと思う」(11.7%)と続いている。

12. 成人の日のつどい

(1) 成人の日のつどいの対象年齢

「20歳」(56.2%)が5割台半ばを超え最も高く、次いで「18歳」(32.0%)、「成人の日のつどいを実施しない」(6.2%)と続いている。

(1-1) 成人の日のつどいの対象年齢の理由(20歳)

「20歳が節目だと感じるから」(83.0%)が8割台半ば近くと最も高く、次いで「18歳は高校卒業や受験で忙しいから」(36.9%)と続いている。

(1-2) 成人の日のつどいの対象年齢の理由(19歳)

「18歳は高校卒業や受験で忙しいから」(60.0%)が6割と高くなっている。

(1-3) 成人の日のつどいの対象年齢の理由 (18歳)

「成人年齢が18歳となるから」(84.3%)が8割台半ば近くと最も高く、次いで「18歳が節目だと感じるから」(18.5%)と続いている。

(2) 2022年度の成人の日のつどいの対象年齢

「20歳のみでよい」(42.6%)が4割強と最も高く、次いで「18歳～20歳(3学年一斉に実施)」(35.9%)、「成人の日のつどいを実施しない」(6.5%)と続いている。

(3) 成人の日のつどいの式次第について

「式典とコミュニケーションタイムともに実施がよい」(52.7%)が5割強と最も高く、次いで「式典のみでよい」(33.8%)と続いている。

(4) 成人の日のつどいのビュッフェ形式について

「立食ビュッフェ(軽食)でよい」(40.7%)が約4割と最も高く、次いで「ビュッフェ(軽食)は不要」(26.8%)、「着席ビュッフェ(軽食)でよい」(23.3%)と続いている。

13. 千代田区民体育大会

(1) 千代田区民体育大会の認知度

「知らない」(46.9%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで「知っているが参加したことはない」(36.6%)、「知っていて参加したこともある」(15.7%)と続いている。

(1-1) 千代田区民体育大会を何で知ったか

「広報千代田」(48.8%)が5割近くと最も高く、次いで「町会で聞いて」(34.0%)、「家族や友人、知人から聞いて」(27.0%)と続いている。

(1-2) 千代田区民体育大会に参加した理由

「町会に誘われたから」(61.6%)が6割強で最も高く、次いで「コミュニティ形成のため」(24.6%)が2割台半ば近くで続いている。

(1-3) 千代田区民体育大会に参加した事がない理由

「日程が合わない」と「魅力を感じない」(ともに37.4%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「参加の方法が分からない」(26.5%)が2割台半ばを超えて続いている。

14. スポーツ実施率やスポーツへの興味・関心

(1) 運動・スポーツを行う頻度

「30分以上の運動を週2回以上」(28.8%)が3割近くで高く、これに「週2回以上」(10.6%)と「週1回程度」(17.3%)を合わせた『週1回以上』(56.7%)は5割台半ばを超えている。

(1-1) この1年間に行った主な運動・スポーツ

「散歩やウォーキング」(59.5%)が6割弱と最も高く、次いで「筋力トレーニング」(27.3%)が2割台半ばを超えて続いている。

(1-2) この1年間に運動・スポーツを行わなかった理由

「忙しくて時間がない」(56.0%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「仕事や家事で疲れている」(54.0%)が5割台半ば近くと続いている。

(2) 新しく始めたいと思う運動・スポーツ

「散歩やウォーキング」(22.0%)が2割強と最も高く、次いで「筋力トレーニング」(20.4%)が約2割で続いている。

(3) どのようなスポーツ指導者が必要か

「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心が湧くような指導ができる人」(61.0%)が6割強と最も高く、次いで「健康・体力づくりのための運動指導ができる人」(51.6%)が5割強で続いている。

(4) 地域での運動やスポーツ活動に期待する効果

「地域住民の健康・体力づくり」(61.6%)が6割強で最も高く、次いで「高齢者の生きがいづくり」(36.2%)、「余暇時間の有効活用」(33.8%)と続いている。

(5) 生涯スポーツ振興策について千代田区に望むこと

「施設の利用時間の拡大(早朝・夜間)」(35.9%)と「快適な施設(空調・清掃・バリアフリー等)の維持・管理」(35.2%)がそれぞれ3割台半ばで高くなっている。

15. 商工振興

(1) 「地方との連携」の取り組みの認知度

「地方産品を扱うマルシェの開催」(43.8%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで「姉妹都市(嬬恋村・五城目町)交流」(30.8%)が約3割で続いている。

16. 男女平等、人権、国際交流

(1) 性別による不平等を感じることもあるか

「あまり感じない」(37.2%)が3割台半ばを超えて最も高く、これに「感じない」(21.4%)を合わせた『感じない』(58.6%)は6割近くとなっている。

(2) 人権が尊重されている社会だと思うか

「どちらかというと思う」(48.2%)が5割近くと最も高く、これに「思う」(30.2%)を合わせた『思う』(78.4%)は8割近くとなっている。

(3) 最も関心のある人権問題

「子ども」(20.0%)が2割と最も高く、次いで「インターネットによる人権侵害」(16.6%)が1割台半ばを超えて続いている。

(4) LGBTsについて正しく理解したいと思うか

「思う」(41.1%)が4割強と最も高く、これに「どちらかというと思う」(32.0%)を合わせた『思う』(73.1%)は7割台半ば近くとなっている。

(5) 同性のパートナーの権利について

「思う」(43.1%)が4割台半ば近くと最も高く、これに「どちらかというと思う」(31.0%)を合わせた『思う』(74.1%)は7割台半ば近くとなっている。

(6) 平和事業への参加の有無

「参加したことはない(知らなかった)が、今後は参加してみたい」(41.1%)が4割強と最も高く、これに「参加したことがなく、今後も参加するつもりはない」(39.5%)を合わせた『参加したことがない』(80.6%)は約8割となっている。

(6-1) 参加したことがある平和事業

「戦没者追悼式」(58.3%)が6割近くと最も高く、次いで「平和イベント(平和啓発展示または映画上映会)」(38.9%)が4割近くとなっている。

(7) 国際交流や平和関連の事業への参加の有無

「ない」(88.3%)が9割近くと最も高く、「ある」(8.7%)は1割未満となっている。

(8) 区在住の外国人との交流意向

「機会があれば交流したい」(54.3%)が5割台半ば近くと最も高く、これに「積極的に交流したい」(11.6%)を合わせた『交流したい』(65.9%)は6割台半ばとなっている。

17. アーツ千代田 3331

(1) アーツ千代田 3331 の認知度

「アーツ千代田 3331 を知らない」(57.9%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで、「行ったことはないが名称は聞いたことがある」(16.7%)、「行ったことがある」(16.5%)、「行ったことはないが行ってみたいと思う」(8.3%)と続いている。

(1-1) アーツ千代田 3331 へ来館する(した)理由

「イベントが面白い」(48.6%)が5割近くと最も高く、次いで、「区民が参加できるイベントが多い」(26.6%)、「施設内の雰囲気が良い」(26.1%)が2割台半ばを超えて続いている。

(1-2) アーツ千代田 3331 へ行ったことがない理由

「活動内容を知らない」(57.8%)が5割台半ばを超えて最も高く、「施設の場所を知らない」(32.0%)が3割強と続いている。

18. 都市計画マスタープラン

(1) 区が備えておくべき社会的な基盤

第1位から第3位までの積み上げでみると、「地震等への災害対策と復興事前準備」(74.8%)が最も高く、次いで、「災害時における昼間区民や外国人を含む滞在者の安全確保」(60.9%)、「高齢者や障害者に優しい環境の整備」(43.4%)の順となっている。

(2) 区が持つべき魅力・価値として必要なもの

第1位から第3位までの積み上げでみると、「買い物に便利なお店や公共施設、医療・福祉施設」(68.9%)が最も高く、次いで、「町並みの美しさなどに配慮した良好な景観」(55.6%)、「ファミリー世帯の増加や高齢化に対応した住環境」(49.4%)、「緑地や水辺など自然に親しみ憩える場」(48.4%)の順となっている。

(3) まちづくりを進めるための検討方法

「計画案の作成の段階から区民や事業者が参加し、行政と一緒に考えながら進める」(54.9%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで、「行政が計画案を作成し、区民や事業者の声を聴いたうえで定める」(30.6%)が約3割と続いている。

(4) まちづくり活動の参加意向

「地域の課題を解決するためのルールづくりの場への参画」と「まちの美化運動等の行事」(ともに37.4%)が3割台半ばを超えて最も高く、「まちづくり講演会など話を聞くイベント」(33.0%)が3割台半ば近くと続いている。

19. 景観まちづくり計画

(1) 景観への関心

「ある程度は関心がある」(49.2%)が5割弱と最も高く、これに「大いに関心がある」(43.1%)を合わせた『関心がある』(92.3%)は9割強となっている。

(2) 大切にしていきたい景観

「皇居や外濠の緑や水辺」(92.0%)が9割強と最も高く、次いで「神田明神や日枝神社など歴史的な建造物」(62.3%)、「東京駅周辺の街並み」(60.1%)と続いている。

(3) 区の景観を損ねていると感じるもの

「野ざらしになっている廃棄物」(46.7%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで「電柱、電線、電波塔など」(44.3%)、「放置された自転車や違法駐車」(41.1%)と続いている。

(4) 10年前からの景観の変化

「変わらない」(42.3%)が4割強と最も高くなっている。次いで「どちらかと言うと良くなった」(23.8%)が2割台半ば近く、これに「良くなった」(8.1%)を合わせた『良くなった』(31.9%)は3割強となっている。

(5) 区の景観行政で力を入れていくべき項目

第1位から第3位までの積み上げでみると、「緑化の推進」(59.8%)が最も高く、次いで、「電線類地中化の推進」(52.1%)、「歴史的建造物等の保存・活用」(41.3%)の順となっている。

20. 緑の基本計画

(1) 緑に接する機会

「道路の街路樹」(63.2%)が6割台半ば近く最も高く、「皇居や神社などの伝統的な緑」(61.7%)が6割強と続いている。

(2) お住まいの地域の緑の増減

「あまり変化がない」(55.5%)が5割台半ばと最も高くなっている。次いで「やや増えた」(12.6%)が1割強、これに「増えた」(3.0%)を合わせた『増えた』(15.6%)は1割台半ばとなっている。

(3) 緑と関わるうえで区に期待する支援

「助成など経済的な支援」(25.2%)が2割台半ばと最も高く、次いで「活動の助言や指導を行う専門家の派遣」(14.6%)、「制度や活動などの情報提供」(13.6%)と続いている。

(4) 区の緑に望む効果

「都市の気温や空気などの環境を調整すること」(64.4%)が6割台半ば近くと最も高く、次いで、「都市の季節感や、風格を与えること」(53.9%)、「身体の健康づくりや、心の安らぎの場となること」(48.4%)と続いている。

(5) 特に守り育てる必要がある緑

「皇居や神社などの伝統的な緑」(79.4%)が8割弱と最も高く、次いで、「公園の緑」(70.5%)、「道路の街路樹」(62.9%)と続いている。

21. 駐車場

(1) 自動車で移動する頻度

「自動車で移動することはほとんどない」(63.2%)が6割台半ば近くと高くなっている。

(1-1) 区内に自動車で移動する目的

「買い物・食事・社交など」(49.2%)が5割弱と最も高く、「その他の個人的な活動」(12.7%)が1割強と続いている。

(1-2) 区内に自動車で移動した際に車を停めた駐車場

「目的地の施設（商業施設、病院、会社など）の建物内の駐車場」（64.2%）が6割台半ば近くで最も高く、次いで、「コインパーキング（5台未満の小規模なもの）」（29.1%）、「路上駐車・路上停車」（27.8%）と続いている。

(1-3) 駐車場から目的地までの許容距離

「80メートル程度（1分程度かかる）」（32.1%）が3割強で最も高く、「240メートル程度（3分程度かかる）」（19.4%）、「160メートル程度（2分程度かかる）」（19.1%）が2割弱と続いている。

(1-4) 駐車場の事前予約の利用有無

「知らない」（53.8%）が5割台半ば近くと最も高く、「利用したことは無いが、存在は知っている」（28.1%）が3割近くと続いている。

(2) シェアリング駐車場の利用経験

「知らない」（46.1%）が4割台半ばを超えて最も高く、「存在は知っているが、利用したことはない」（37.2%）が3割台半ばを超えて続いている。

22. コミュニティ「ちよくる」

(1) コミュニティサイクル「ちよくる」の認知度

「知っている」（70.6%）が約7割、「知らない」（28.1%）が3割近くとなっている。

(2) コミュニティサイクルの利用経験の有無

「利用したことがある」（18.8%）が2割近く、「利用したことがない」（78.2%）が8割近くとなっている。

(2-1) コミュニティサイクルの利用目的

「私事（買物、飲食、散歩など）」（61.8%）が6割強と最も高く、次いで「通勤・通学」（23.0%）、「観光・レジャー」（7.3%）、「業務・ビジネス」（5.5%）と続いている。

(2-2) コミュニティサイクルを利用した感想

「上がった」（82.4%）が8割強となっている。

23. 区民の防災対策

(1) 地域の避難所の認知状況

「知っている」（75.9%）が7割台半ば、「知らない」（21.5%）が2割強となっている。

(2) 地震などの災害に備えて備蓄しているもの

「飲料水」（79.7%）が8割弱と最も高く、次いで「懐中電灯」（73.6%）、「食料品（米・缶詰・ビスケット・レトルト品など）」（66.7%）、「携帯ラジオ」（45.4%）、「カセットガスコンロ」（41.7%）、「ハブラシ・タオル」（39.3%）と続いている。

(2-1) 災害に備えた飲料水・食料品・携帯トイレの備蓄状況

“飲料水”の備蓄状況は、「3日分以上」（49.5%）が5割弱、「1日分～2日分」（45.5%）が4割台半ばとなっている。

“食料品”の備蓄状況は、「1日分～2日分」（46.3%）が4割台半ばを超え、「3日分以上」（36.6%）が3割台半ばを超えている。

“携帯トイレ”の備蓄状況は、「備蓄していない」（29.5%）、「1日分～2日分」（29.2%）が

3割弱となっている。

(3) 震災時に転倒のおそれのある家具などへの安全対策

「一部の家具などに行っている」(53.9%)が5割台半ば近くと最も高く、これに「すべての家具などに行っている」(9.8%)を合わせた『安全対策を行っている』(63.7%)は6割台半ば近くとなっている。